

2017 年度森基金研究成果報告書

介護サービス利用希望及び影響要素に関する研究

—中国・深センの実態調査を通じて—

政策・メディア研究科 修士課程 1 年

李 亜楠

・ 研究背景

1. 高齢化問題の深刻化。1999 年に高齢化社会に入った中国は、高齢化のスピードが急速であり、2015 年年末の 65 歳以上の高齢者人口は 1.4 億人に達し、総人口の 10.5%を占めている。他の国と比較すると、中国の高齢化の特徴5つがある。(1)高齢者人口の規模は大きく、高齢化のスピードが速い。(2)「未富先老」。(3)家族扶養機能の低下。(4)養老体系の構造、施設の整備はまた不十分である。(5)養老の格差が大きい。都市と農村、東部沿海地域と西部内陸の格差が大きい。

2. 急激な高齢化が進む中、介護施設が不充実した一方、全国介護施設の空室率が 48%に達した。特に民営介護施設の定員割れという事態がととも多い。例えば、羅湖区と南山区の公営介護施設の入居待ちをしている高齢者は 3813 人であるのに対し、民営介護施設の入居率は半分以下である(深圳特区報 2013&2016)。

3. 医療サービス・介護サービスが個別に提供されているので、加齢により病気になりやすい高齢者にとっては不便である。それを解決するため、2015 年に『中華人民共和国国民経済と社会発展第 13 次五ヶ年計画要綱』が公表され、その中に医養結合を全面的に推進する計画が示した。

・ 研究目的と意義

中国の高齢者人数は世界一で、「一人っ子政策」により高齢化のスピードも急激であるが、それに対し介護施設が少なく高齢者の介護需要は満足できていない。深センは中国の「北上広深」(北京、上海、広州、深セン)と呼ばれる一流都市の一つであるが、深センの介護サービスに関する研究はまた少ない。深センの特徴としては、内陸から出稼ぎにきて深センの戸籍を持たない人が常住人口の 2/3 に占めていることがある。これらの多くの出稼ぎ者がそのまま定住するケースが増えているが、戸籍がないと介護等の住民サービスを受けることはできないために、深センの高齢者介護問題は他の都市より複雑になることが予想される。人口構成や出稼ぎ割合など様々な条件が北京や上海と異なる深センにおいては、高齢者介護施設の現状、特に高齢者の介護需要と介護サービス利用希望はさらに異なる様相を呈するだろうと思われる。さらに、医養結合モデルが公表された以降、施設養老とコミュニティ養老における医療サービスの充実に対して高齢者の介護需要が変わる可能性が思われる。

したがって、深センにおける高齢者介護の実態調査を行ったうえ、高齢者の利用希望及び影響要素を分析し、医養結合モデル導入後の深センの高齢者介護のあり方を検討することを目的とする。

- ・ 研究方法

研究方法として、主にアンケート調査とする。深センにおける在宅養老、施設養老とコミュニティ養老を利用している高齢者から、それぞれ 100 人を選出し、介護サービス利用希望を中心にアンケート調査を行う。

- ・ 今後の予定

今学期は上海と深センにおける「医養結合」が導入された施設に事前調査を行った。今後では、それを踏まえ、研究計画書を見直し、アンケート用紙の作成や調査の実施を行う予定である。

- ・ 参考文献

沈潔（2007）『中華圏の高齢者福祉と介護』 ミネルヴァ書房。

鄭小華（2009）「中国都市部における高齢者介護サービスに関する研究」博士論文、大阪府立大学

経済参考報（2016）「民政十三五规划公布 医養結合型養老機構成発展重点」。

深圳特区報（2013）「我市養老機構床位総体短缺」。

深圳特区報（2016）「進入公弁養老院將實行輪候制」。